

明治維新と「廃仏毀釈」講座

2018-7-19 記 中村 宣夫

■実施日時:2018-7-19(木) 13:30~15:30

■場 所:中央公民館 学習室 8・9号室

■参加者:26名

■講 師: 谷 和夫 氏

■講座内容:

廃仏毀釈。この言葉は中学生か高校生の歴史の時間に聞いたことと思います。明治時代の初期に起こった仏教を排除する活動だったと記憶しています。しかし、なぜその様な活動が起こったのか、その結果はどうだったのか、今の生活に何か影響は有ったのか。詳しいことはほとんど知りません。今回の講座で、神道と仏教のかかわりの歴史、つまり相互認識、相互協力そして神道が仏教を排除するまでの歴史を学びました。

「ぶっちゃん雑学 神仏習合～神仏分離令～廃仏毀釈」 講師 谷 和夫氏

1. 神仏習合の時代

神々の信仰は本来土着的なもので共同体の安寧を祈り、特定の氏(ウジ)や村(ムラ)と結びついた極めて閉鎖的なものでした。これに対し六世紀中ごろ伝来してきた仏教は氏や村といったと特定の場所に限らず普遍的な真理を求めているものでした。そして藩神(となりのくにのかみ)として認識されました。この仏教を広めるため伝統的な神祇信仰との融和がはかられました。そして、神道はどちらかと言うと仏教に教えを求めるような立場になりました。その結果神社の傍らにお寺が建てられるようになりました。「神宮寺」と言うものです。神前で読経がなされたのです。一方、仏教も神社側に接近しました。その寺院に関係のある神を寺院の守護神、鎮守とするようになりました。

これは宗教だけの問題ではなく、七世紀後半に制定された律令制という社会構造の変化にもよるものです。豪族らが単なる共同体の首長から私的所有地を持つ領主的な性格を持つようになるに従い、その私的所有に伴う罪を自覚するようになり従来の神祇信仰では行き詰まりがでてきた。そして豪族個人の新たな精神的支柱が求められきたのです。

2. 鎌倉時代以降

鎌倉時代末期から南北朝時代になると、神こそが本地であり仏は仮の姿であるとする神本仏迹(しんほんぶつじゃく)説を唱える伊勢神道や唯一神道が現れました。この思想は江戸時

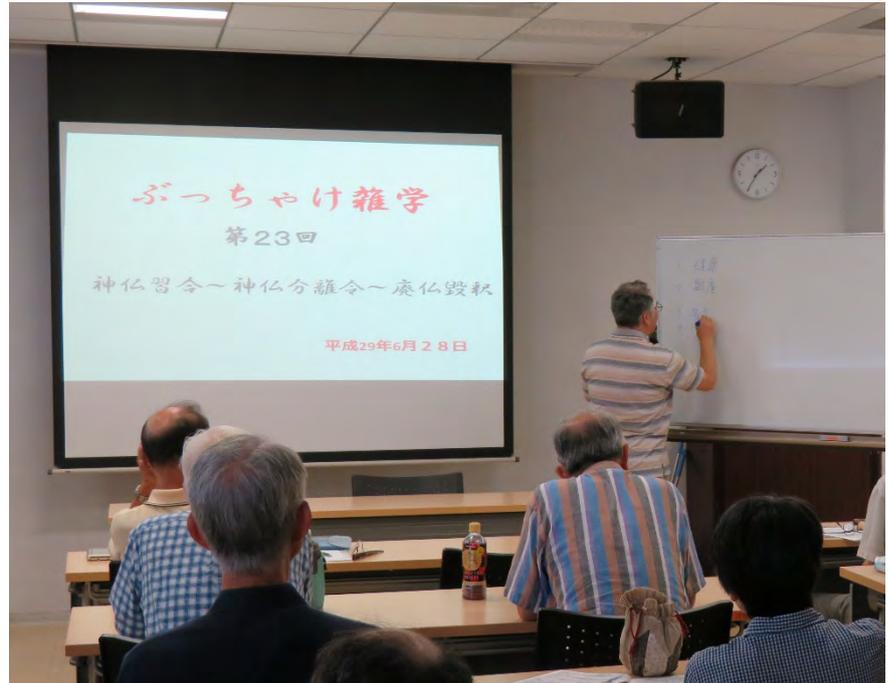


代に儒学により統合され垂加神道(すいかしんとう)が誕生し、神道としての教義確立に貢献しました。

しかし、前記の神仏習合の考え方は明治時代の神仏分離まで衰えることなく続きました。

3. 江戸時代の状況

江戸時代仏教は政治との結びつきが強くなりました。檀家制度です。江戸時代の寺請制度が始まりと言われていています。檀家が特定の寺院に所属して、葬祭供養一切をその寺院に任せる代わりに、布施として経済支援を行う制度です。この制度を通じ、宗旨人別長と呼ばれる戸籍台帳を寺院が作成管理していました。檀家の家族、奉公人、出入りの行商人などの名前、年齢などが記



されていました。これはキリシタンでない事を証明すると同時に住居移転、奉公、結婚や旅行に至るまで、寺請証文という証明書を発行することで、身分制度を確立させていきました。しかし、この制度は寺院の腐敗の元にもなりました。檀家への経済面での支援の強要や身分制度の締め付けです。これが後の廃仏毀釈運動へつながる要因にもなりました。

4. 神仏分離令

神仏分離とは、神仏習合の慣習を禁止し、神道と仏教、仏と神、神社と寺院を区別するという事です。この動きは中世から見られましたが、一般には江戸時代中期以降の儒教や国学や復古神道に伴うものを指し、狭義には明治新政府により出された神仏判然令(いくつかの通達の総称です)に基き全国的に公的に行われたものを指します。その背景として、江戸時代の国学者平田篤胤の「復古神道」の考えがあります。これは幕末の尊王攘夷運動の思想背景にもなりました。

明治新政府は「王政復古」「祭政一致」の理想実現のためこの思想に基づき、神仏分離を行うことで、神道の国教化を図りました。しかし神仏分離令はキリスト教を排除することにも繋がりがり、外国の圧力で明治五年には停止されました。

5. 廃仏毀釈

神仏分離令のもと、一部の国学者の主導で外来の宗教である仏教は国教にふさわしくないとして、それまで特権を持っていた仏教関係者の財産や土地を簞奪していきました。これをきっかけに起こったのが「廃仏毀釈運動」です。これまでの寺請制度に不満を持っていた民衆が加わり寺社から仏教的な要素を払拭するために、仏像の破壊などが進みました。また、僧侶の中には、政府の指導で俗世に戻るもの、神職へ転向するものなどがいました。また、神道の神に仏具を供えることや、「御神体」を仏像とすることも禁じました。

明治政府はこの行動に公には拘わっていません。しかし、地方官が寺院の財産の収公を狙ったことなど社会的・政治的理由も窺えます。

6. 廃仏毀釈の実例

- 1) 薩摩藩では1600寺余りも有った寺院が廃寺となり僧侶は還俗し、兵士になったものも多くなりました。没収された財産や人員は軍を強化するために回されました。
 - 2) 美濃国の苗木藩では寺院、仏像、仏壇はすべて破壊され、藩主の菩提寺も廃寺となり、葬儀は神道で行う家庭が多いそうです。
 - 3) 大阪住吉神社の神宮寺の二つの塔をもつ伽藍は、明治六年にほとんど壊されました。奈良興福寺の食堂は明治八年に破壊された。
 - 4) 伊勢国では、伊勢神宮のお膝元と言うこともあって激しい廃仏毀釈があった。かつて神宮との関係が深かった慶光院など100ヶ所以上が廃寺となった。
- ただ、これらの行動も地域性があり国学の盛んな地域ほど活発に行われたということです。



5. 岡倉天心の功績

ある日、岡倉天心とアメリカ人フェドロサが奈良の仏像を見に行った。そこで見たものは破れ傷んだ仏像である。これを修復しようとして当時の総理大臣伊藤博文に会いフェドロサに「日本の伝統美術は西洋に匹敵する。」と言わせた。伊藤博文も心を動かされ、美術品の保護・文化財の保護に動いた。

6. 現代への影響(感想に変えて)

神仏習合。仏教はその初めからヒンズー教など土着の宗教と融合しながら発展してきた。日本で神道と共存できたのも何の不思議もない。日本人は無宗教だと言われている。宗教を意識したことは無い。しかし、宗教とは空気のようなもので無意識のうちにその行動をしている。旅行に行き神社仏閣があればお賽銭をあげお参りする。お正月には初詣に行く。かつてある外人が日本教と言ったが仏教と神道は日本教の大きな宗派にすぎないのかなと思う。こう考えればこの行動は何の不思議もない。廃仏毀釈とは一種の宗教戦争か？

担当::Dグループ 青木、奥富、小林、佐藤、戸田、中村